

第4回実行委員会だより

実行委員会(9月7日(土)開催)の内容を以下にご連絡いたします

挨拶

《福山会長》

夏休みも終わりましたし少し暑さも和らいできたところですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。私は色々ありまして、この夏はほとんど体調不良で過ごしていたところです。

ところでこの江東区の深川地区には富岡地区青少年対策委員という組織がありまして、7月のことにはなっていますが、その催しで近隣地域のパトロールのようなことを行なってきました。

私は地域の青少年対策委員というのを兼務してまして、各学校のPTA会長というのはいわゆる「当て職」というものになるようです。この実行委員会というのはPTAとか学校及び地域に関することをお伝えする場であると考えています。本件は学校の通学の安全面にも密接に関わることですので、この機会に少しご紹介させていただこうと思います。

パトロールのお話に戻りますが、当日は出張所に集合してからそれぞれの現場に行きまして、幾つかの班に別れてパトロールをして、気づいたことを発表するわけです。それは例えば、夜になると急に人通りが少なくなる場所や時間帯ですとか、道幅の狭い危険な交差点ですとか、そういった観点で危ないと思われるところを報告し合うというものでした。

初めてのパトロール参加でしたので自分で驚いたことがあったんですけども、意外にも普段歩いている道というものを自分自身びっくりするくらい何も意識しないで歩いているということだったんです。ここにどんなお店があって、歩道の幅はどれくらいで、どの時間帯にどれほどの人通りがあるかとか、車の交通量はどれくらいですとか、そういうことをほとんど何も意識しないで一っ歩歩いてたということなんです。

思い起こしてみますと、私が普段の道を歩いている時に考えていることは大体二つのパターンに絞られるようです。一つには、近現代から続く世界構造や自分自身に対する苛立ちや不平不満などです。もう一つはこの宇宙空間の端っこがどうなっているかということです。内容は誰かにお伝えするようなことではありませんでしたが、お伝えしたかったこととしては、意識が自分ばかりにフォーカスされていて、子供の目線が入っていなかったということです。子供からはどんなビジョンを通して普段の道を通るかということです。罰則はないかもしれませんが、地域に生きる大人としてはちょっと不十分だったかなと思い知らされました。

今回このお話をご紹介しようと思った理由の一つですが、私実は先日トラックに轢かれてしまったんです。この通り軽傷ではありまして、自分自身そんなにびっくりしなかったんですけども、これが仮に子供達に起きたことだったらと思うと、とても怖くなってきたんです。自分の意識の低さが怖い、という意味です。

それでこの夏の体調不良の中で始めた小さなことがありまして、これからは子供の目線もプラスして地域を眺めてみようというチャレンジを始めてみたところなんです。

これは私自身の小さな試みですので、どなたかにもお願いしたいとかそういったことはありません。それでも何か思うところのある保護者の方はいらっしやと思います。個人的にも非常に危険な場所があると認識している場所もありますので、そういった場所があれば共有できれば嬉しいで

すし、場合によっては然るべきところに直接ご相談したいと考えています。

ほとんど私の反省文のようなご挨拶になってしまったようではありますが、皆さんに何か伝わるものがありましたら幸いです。

《大木校長先生》

本校PTA役員・実行委員の皆様、おはようございます。本日は、第4回実行委員会でございます。よろしくお願い申し上げます。

夏休みが終わり、学校が始まって2週間が過ぎました。今年も大変猛暑の夏休みでしたが、大きな事故の報告も無く、こどもたちは元気に登校してきております。日頃からのご家庭のご協力に感謝申し上げます。

さて、私からは、3点のご報告をさせていただきます。

1点目は、5・6年生の宿泊行事についてです。8月2日（金）から4日（日）に、5年生は茨城県常総市の水海道（みつかいどう）あすなろの里にて自然体験教室を実施し、無事終了いたしました。飯ごう炊飯やキャンプファイヤー、ナイトウォーク等、身近とは異なる環境の中で、普段できない学習をしてまいりました。昨年度まで実施していた岩井臨海学校も大きな学びがある宿泊行事でしたが、この自然体験教室では、蛍を見たり木を削ってナイフやフォークの柄の部分を作ったり、緑豊かな環境の中での良い学びが多く見られました。越中島小学校の新たな伝統として続けてまいりたいと思います。

また、9月2日（月）から4日（水）には、6年生が日光移動教室に行etteまいりました。前日までの台風の影響や熊の出没が心配されましたが、ほぼ予定通りに安全に行程を終えることができました。6年生の学ぶ姿勢、礼儀正しさ、友達を思いやる心等、きらりと輝く様子が多く見られ、大変感心しました。日光高原学園の管理人の方からは、「素晴らしいこどもたちと引率の先生方ですね。」とお褒めの言葉を何度もいただきました。

2点目は、本校の教員配置についてです。2年1組担任につきましては、産休・育業のため、8月より、しばらくの間お休みをすることになりました。つきましては、2年1組担任を家庭科専科が担当させていただきます。なお、5・6年生家庭科は、担任が指導いたします。今年度は12月に展覧会があり、家庭科作品も出品します。この家庭科作品作りについては、ぜひご家庭の協力をいただけると幸いです。こうした年度途中での担任や担当の交代という状況につきましては、学校全体で支援をする体制をとり、こどもたちが混乱しないよう、十分に配慮してまいります。

3点目は、給食指導についてです。給食は、多くの人と一緒に食事を食べる会食の時間です。食事を共にすることで、コミュニケーションが図られ、お互いの心や体の調子を知ることができると考えています。これまでコロナ禍の影響により、食事を共にする活動に制限がありましたが、食育を更に推進するにあたり、後期より給食指導を改善していきます。具体的には、コロナ以前のようにこどもたちは3～4名の班になり、机を向かい合わせにし、適切な声の大きさを意識して会話しながら喫食するということです。ルールやマナーを守って、みんなで楽しく食べてほしいと思います。なお、インフルエンザを含めた感染症の発生状況に合わせ、前向きや黙食の指導を検討する場合もあります。

今後も、まだまだ猛暑が続きそうです。夏の疲れが出る頃だと思っておりますので、こどもたちの様子をよく見ながら、教育活動を行っていききたいと思っております。

最後になりましたが、PTA役員、かもめまつり実行委員、並びに各委員会の皆様には、かもめまつり実施に向けてご尽力いただき、感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。私からの挨拶は以上になります。

《 檜本副校長先生 》

夏休みには、PTAの皆様から多大なるご協力を得まして、個別に通学路安全点検をしていただきました。うだるような猛暑の中、本当に大変だったことと思います。誠にありがとうございました。8名の方から、交通安全面・不審者対策面での危険箇所を写真撮影し、教えていただくことができました。中には、橋（浜園橋）の入り口鉄柵がさび付いて、根本が腐食でなくなっている箇所もありました。早急に教育委員会と連携し、警察や道路管理部署にも伝えていただいています。

また、交通面・不審者対策面等で危険な箇所につきましては、校内で生活指導部中心に全校やクラスで安全指導をするようにいたします。

こども達の安心・安全のために、ご協力本当にありがとうございました。

また、PTAかもめまつりご担当の皆様方からは、こどもまつりで出すクイズ作成のために、教職員へアンケートを取っていただいています。教員の個性が分かるような、とても面白いクイズになりそうです。もう間もなく、教職員からの回答が集まると思います。

集約できましたらまた、お伝えしたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

《 10月の行事予定 》

9月20日（金）	5年生 TGG体験
9月25日（水）	開校45周年記念集会
9月26日（木）	4年生 水道キャラバン
9月27日（金）	4年生 社会科見学
10月11日（金）	前期終業式
10月15日（火）	後期始業式
10月22日（火）	3年生 社会科見学
10月24日（木）～26日（土）	学校公開

委 員 会 活 動 報 告

【 学 級 】

7/6	第一回かもめまつり実行委員会（対面で開催）/全学年の出し物決定	
7/17	ビニールプールに空気を入れ、破損有無確認〈3年生〉	
7/18	景品決定〈3年生〉	
7/20	企画書、備品リスト作成〈4年生〉	
7/21	企画書、備品リスト作成〈1年生、3年生、5年生〉	
7/22	企画書、備品リスト作成〈2年生〉	
7/24	企画書、備品リスト作成〈6年生〉	
7/26	かもめまつり企画書、備品リストを本部に提出〈全学年〉	
7/31	倉庫見学〈2年生〉	
8/3	第二回かもめまつり実行委員会（オンライン開催）、5年生学代交替（小川さん→渡辺さん）	
8/4	備品で利用するかもみんのイラストデータを本部から受領〈6年生〉	
8/17	レイアウト、制作物検討〈4年生〉	
8/19	企画書、備品リスト更新〈5年生、2年生〉	
8/20	企画書、備品のリスト更新版を本部に提出〈全学年〉	

～～～ 第4回実行委員会だより ～～～ (3/12) ～～～ 第4回実行委員会だより ～～～

8/24	備品購入〈5年生〉	
8/29	備品購入、看板制作〈3年生〉/企画書更新〈1年生〉	
8/30	ポスターデザイン作成、企画書更新〈4年生〉/企画書更新〈6年生〉	
8/31	レイアウト、人員配置を本部に提出〈各学年〉	

【 広 報 】

7/1	新任職員写真撮影	
7/8	運動会写真選定	
7/12	職員アンケート回収	
7/17	運動会写真入手	
7/18	写真NG児童のチェック依頼	
7/24	入稿案作成	
7/25	1年生写真・アンケート回収	
8/6	印刷会社と入稿打ち合わせ	
8/27	初校データ受領	
8/29	担当ごとに初校データ確認	

【 保体文化 】

8/26	「深川っ子運動会」の役員（2名）を本部へ提出	
------	------------------------	--

【 校 外 】

7/8	7月度防犯パトロール実施	
7/12	7月度防犯パトロール、檜本副校長先生への報告	
8/22	9月度防犯パトロール日程調整開始	
8/30	防犯パトロール資機材支給団体活動報告書／江東区危機管理課提出対応	

【 卒 対 】

7/28	N o . 2 打ち合わせ(アルバム)	
8/22	記念品 1 発注	

【 本 部 】

7/9	江東区立小学校深川南部地区PTA協議会第一回会長会参加	
7/17	(イベかもめ)かもめまつり打合せ、備品確認	
7/18	(イベかもめ)運動部へメール作成	
7/24	かもめまつり本部企画用備品リスト作成	
7/26	かもめまつり各学年備品リストの確認	
7/27	かもめまつり各学年予算確認	
7/29	かもめまつりPTA室、倉庫等の備品リスト確認	
7/30	かもめまつり本部企画書作成	
7/31	かもめまつり防災倉庫の看板系確認	
8/1	江東区立小学校深川南部地区PTA協議会第二回会長会参加	

8/1	かもめまつり各学年企画書の確認・運動部宛にメール送信	
8/3	第2回かもめまつり実行委員会	
8/5	オープンチャットのノートにかもめまつり会計出納帳に関する事項を貼り付け	
8/20	かもめまつり各学年企画書修正提出	
8/21	通学路安全点検報告	
8/29	かもめまつり打ち合わせ	
8/31	かもめまつり各学年・運動部レイアウト・人員配置を提出	
9/6	かもめまつり打ち合わせ	

協 議 ・ 報 告

① かもめまつり進捗状況（本部_イベントかもめ井口）

7月6日(土) 11時～ 第一回かもめまつり実行委員会

越中島小学校ランチルーム（対面）

8月3日(土) 10時～ 第二回かもめまつり実行委員会（ZOOM）

◆決定事項

【開催日時】

2024年10月19日（土）

晴天：校庭 雨天：体育館

1部：9：00～10：00〈3．4年生〉

2部：10：20～11：20〈2．5年生〉

3部：11：40～12：40〈1．6年生〉

・参加者は在校生とその家族（未就学児）

・今年度も飲食無し

・記念品配布→雑貨・文房具予定

（参加できなかった子にも配布）

【出し物】

本部：スタンプラリー、謎解き、トリックオアトリート

1年生：ひもつり（景品あり）

2年生：ヨーヨー釣り（景品あり）

3年生：スーパーボールすくい（景品あり）

4年生：ピンポンカップin（景品あり）

5年生：わなげ（景品あり）

6年生：的当て（景品あり）

フットサル部：わくわくPK対決

バドミントン部：シャトルターゲット（景品なし）

～～～ 第4回実行委員会だより ～～～（5/12）

～～～ 第4回実行委員会だより ～～～

【告知】

- ・ 9 月初旬
 - ・ 学校ポスター
 - ・ 先生への招待状
 - ・ ハイツへのお手紙
 - ・ かもめ会へのお手紙
 - ・ さくら連絡網にて全校生徒への開催案内
- ・ 10 月初旬
 - ・ 児童チラシ配布
 - ・ さくら連絡網にて概要案内

② 通学路安全点検への協力(本部会長補佐)

7 月末、学校より依頼のあった通学路安全点検について、皆様のご協力感謝いたします。 おかげさまで 10 点ほどの情報が集まり、学校にお知らせできました。適宜関係各所に報告いただけるということです。

足が砂にとられて上手く前に進めません。ちょっとだけ自信をもって歩き始めたのですが、私が密かにコレクションする自慢の軍用ブーツもほとんど役に立っている様子がありません。一歩足を踏みしめるたびに足の位置は数センチもずれ込み、足首の半分以上を砂に埋めながらとにかく向こう側へ歩いて行きます。

酷暑を見越して持参したサングラスを着用していますが、太陽光を跳ね返す砂地からの反射がひどく、視界はほとんどの色彩が消し去られているかのようでした。近くにある電光掲示板の表示温度は38度を差していますが、砂地を裸足で歩けば数秒で火傷するほどです。日本海の強烈な日差しは想像を超えていました。何もこんな真夏に砂地を歩く旅行に来ることもないだろうと反省はしていたのですが、いつ休みが取れるかもわからない身としては無茶でも旅程を組むしかないというのが実情でした。

同じような考えの人が多いのか、酷い暑さにも関わらず国内でも著名なその“砂丘”は観光客でごった返していました。しばらく砂地を歩いていくと、砂丘の入り口からそんなに離れていない見晴らしの良い丘があり、そこは撮影スポットであると同時に砂旅の程よい到達点になっていることがわかりました。どうやら砂丘の“行軍観光”は無駄な意地を張らずにここで終わりとするのが賢明な判断のようです。

一度でいいからラクダに乗ってみたいというのがここへ来た理由の一つでしたが、そのサービスは中止しているという張り紙が見えました。目的の半分を失った私はその撮影スポットである“適度な丘”から降りて、とにかく砂丘の向こう側にある海岸へ出てみようと思いました。そこにあるのは“ただの海岸”でしかないことはわかっていたのですが、なぜかそうしなければならないような気がしました。

そして熱と砂に囲まれて歩き続け、正常な判断力を失っていく私が“とある人物”に想いを馳せるには十分な舞台設定が出来上がったようです。

“その男”は今から約100年前に生きた人物で、本国からは「情報将校」として砂漠地帯へ送り込まれた「スパイ」でありつつ「考古学者」でもあり、そして「作家」でもあるようでした。毀誉褒貶の著しい人物で、その評価は100年経った今でも一定しません。当時既に普及していた新聞や記録映画の人気も後押しして、一時はちょっとした有名人でもありました。それでも突然行方をくらませたり、複数の偽名を名乗って軍に再入隊するなどの奇行も多く、「英雄」とも「ペテン師」とも言われることがあるようです。少なくとも共通している見解は“危険な理想主義者”であることのようにでした。

私がこの場をお借りして発信を始めた趣旨は、一見近寄りがたい印象を持つPTAというチームの近況などを定期的に配信し会員の方に実情をお伝えすることで、その存在を身近に感じていただくというものでした。私が委員になった理由はいくつかありますが、全国にその名をとどろかせるこの“悪名高い組織”の末端に入り込み、その実情を見てみたいという興味もあったのだと思います。

思い切って初めての自己紹介を試みた前回から少し時間が経ってしまいましたが、今回は本校PTA委員の現状をご紹介します。

まず本校の委員選出においては、選定の時期になると例年希望調査を行っているところです。ほんの少し前までは新型コロナウイルスなどの社会的影響により活動が大きく制限され、その後は委員活動のみならず社会状況や業務活動などのあらゆるものの在り方が変化してきたのは周知の事実です。

ただ有難いことに、少なくとも本校ではそれ以前から優秀な先人たちが業務の効率化をかなりの段階まで進めてくださっていました。対応を考えるのが難しかった数年の間も、何とか活動を支えてくださった委員のみなさんには感謝しかありません。

それでも私が過去に委員の選出活動を垣間見る中で感じたことを正直にお伝えしておきたいと思います。このときに委員を引き受けてくださった方の多くは必ずしも希望して委員になったとは言い難いものでした。そこでは未選出の方が委員候補者としてリスト化され、それぞれの役割毎にリーダーなどを決めていきました。立候補が出れば良いのですが、決まらない場合はルーレットなどで選出されることになっていました。その場で結果はすぐに出ることになりますが、望まずに選出された方たちの表情を私は今でも忘れることが出来ません。もちろん選出業務をしてくださった方たちを責める気持ちなどありません。

そのとき私も何か提案するなどして出来ることがあったように思いますが、私はそれをしませんでした。怖かったのでしょうか。ひょっとしたらこの時の体験が、今このお役目をいただいて活動する原動力のひとつになっているのかもしれません。

私が“その男”を知ることになったきっかけは映画でしたが、「作家」でもあることを知ったのはだいぶ後になってからでした。彼の著書は今日現在ではとても高価な額で取引されているようでしたが、縁あって私はその本を手にすることが出来たので、恐る恐る読んでみることにしました。

そこでは常識に固執しない斬新な発想やリーダーシップと、深い共感力による現地の人々の習慣や価値観を尊重し、共に生活しながら同じ目線で学ぶ高い学習能力やその手法などが克明に描かれ、彼の鋭い洞察力は確かなものであると感じました。それでもどこか自分自身をもモノみたく分析的に描いていて、ひどく“実験的”な印象を受けます。緻密な文章構成と細かい描写に加え、人間の精神の深い部分の考察に迫るなど、どこか“詩的”な印象も受けます。別の章では全く異なる壮大なプロパガンダ戦略についての実践を語るなど、“複数の人格”を持っているようにも思えます。

彼のこの記録は後の名だたる“革命家”一と呼ぶにはあまりに恐ろしい者たちを量産し続け、国家や正規軍を統べる世界中の為政者達は、その後姿の見えない敵との戦いを余儀なくされることになりました。他にも凄惨な記述がありましたが、本稿ではとても紹介出来る内容ではありません。

この“ちぐはぐな男”の数少ない白黒写真が残されていますが、観光地の砂丘とは比較にならぬ灼熱の砂漠地帯を何度も踏破した猛者とは思えないような端正な顔立ちをしています。その虚ろな表情からは、何かの思考や感情を読み取ることは出来ません。

ただ、私が本書を読み進める中で、一つだけゾッとするような共通点を見つけました。本稿でそれを書くことはしませんが、どこか歪んだ人物像を連想することになりました。

今までも何度かお伝えしてきたことですが、本校委員にはとある構造的な問題があることがわかっていました。

ここ数年での委員は毎年一年単位で構成員が入れ替わってきたため、新しい委員の方は当然その都度初めての業務に戸惑います。それでも短期間に新しい人間関係を構築しながら、さらに前年度の実績を参考にして、必死に連絡を取って周囲の方と相談しながら何とか業務を行わざるを得ません。ようやく慣れてきたと思えばまた人が入れ替わってしまいます。しかも望まずに選出されたともなれば、やっている業務は気乗りしません。日常生活の傍らそんなことをするのは簡単なはずがありません。また、人員も限られていて、改善すべき事項を認識出来ても全てを解決するほどのリソースはありませんでした。

そんな中、ちょっとした“古株委員”になってしまった私は、その後打診されるまま現在のお役目をいただくことになりました。最初はきっと独りで活動を牽引していくことになるかと覚悟を決めていたのですが、しばらくしてそれは思い込みであったことに気づき始めました。そこでは幸運なことに、問題解決能力の高い委員の方が多く集まっていて、各自が独自に問題を分析し、自発的に行動を起こしてくださったからです。本稿で詳述することはしませんが、いくつかの問題を改善することが出来たように思います。

それでも、良かったこと以外の部分も書いておかなければなりません。言うまでもありませんが、各業務の負担は担当する人の業務がなるべく均等になるよう取り計らわれるべきです。それでも残念ながらその負担は均等となるには至っていません。

どんな業態でも共通することかもしれませんが、特に全体の業務を調整したり、何か長年横たわる問題の改善を企画して実行に移し、相応の手続きを踏んで最後までやり遂げるにはそれ相応の集中力やエネルギーが必要になります。中には業務の域を超えてご尽力いただいた方も幾らか見受けられ、そういった方たちの善意で何とか前に進んできました。いつも本当に頭の下がる思いです。

ただ、やはり全ての問題に着手出来るほどのリソースはありません。全ての委員の方にも日常生活があるため、問題には優先順位を付けて少しずつ前進しているというのが実情です。

委員業務以外のことも紹介しておきたいと思います。私がとりわけ嬉しく感じるのは、委員のみなさんがお食事会などを開いてくださり、各家庭の児童も含めて学年やクラスを問わず交流を楽しんでいることです。率先してみんなを集めてくださる方もいて、私の知らないところでも頻回に交流されているようです。その延べ回数となると既に数えきれないほどになっているようで、もちろん私も参加させていただくことがあります。

いずれにしてもまずは地域に住む大人が愉しそうに交流し暮らすことこそ、同じ地域の子供たちにも良い影響をもたらすというのは、私が最近になって手にしたちょっとした持論です。

ところで令和6年度の本校PTAでは“小さな異常事態”が起きています。それは信じられないことに、約半数の方が前年度から継続して委員を引き受けてくださったことです。この事態は一部の役職を除き、この数年私の知る限りでは聞いたことがありません。私も再度このお役目を継続させていただくことになったのですが、いずれも委員になった当初からは信じられないことばかりで

す。

大変有難いお話を書いたところではありますが、それでもこの場を借りてお詫びしなければならぬ方たちがいます。それは、勇気を出して委員を引き受けようとしてくださった方たちです。先ほどの委員選出では全てをご紹介していませんでしたが、現状の委員選出の意向調査に当たっては積極的な立候補以外にも、「他に誰もいなければ引き受けてもよい」という選択肢も用意されています。

令和6年度の委員募集を行ったところ、そのほとんどが立候補の回答で埋まることになりました。もちろん嬉しい状況ではありますが、今回は後者の回答がある程度の人数に登っていたようでした。それでも大変恐縮ではありますが、立候補いただいた回答者だけでほとんどの人員を確保出来てしまったため、委員募集を締め切らせていただくことになりました。今ご紹介した後者の回答は、“事実上の立候補”だったのだと思います。現に令和5年度委員の方はそのほとんどがこの後者の回答をいただいた方だったからです。ご回答くださった方の勇気に心から感謝を申し上げたいと思います。

彼は決して歴史の教科書に掲載されるような人物ではありませんが、見方によってはその活動がきっかけとなり、現代にも続く紛争にも大きな影響を与えたとも言われています。このことについて、中には激しい嫌悪を感じる方もいることと思います。ただ、私は本稿で世界史における善悪などを語ろうとは思いません。なにせこの時代に本当のところ何が起きていたのか、事実がさっぱりわからないからです。

残念な想像ですが、特に近現代における世界史では強者が描いた“都合のいい史実”が展開されているように思えてなりません。それでも大まかなことは各研究者たちが必死に調査して発表したものなど一次資料に近いものから情報を接種し、後は仮説を持つこと以外にないというのが私たち一般人の実情です。

それはそうと、彼の周りには様々な“思惑”を持った部族や国家の代理人などが集まってきていました。彼の著書によれば、当時の砂漠地帯に住む複数の部族は長年の圧政を受け続ける中で独立の機運が高まっていた。それらをうまく焚き付け、大衆の意識さりげなくコントロールし一定の方向に向けさせるなどして反乱軍をまとめ上げ、複雑に利害の絡み合う複数の部族を引き連れて戦術を展開していったようです。

それでも多くの人々が彼の“巻き添え”となり、次々に斃れていったようです。彼とその反乱はエスカレートし、彼を派遣した本国の“思惑”とは裏腹に暴走を始めます。現地の混乱とは別に、その裏では大国間の“思惑”がそれぞれひしめき合い、それぞれがそれぞれの視点で自身の強欲な利益を見据えていました。

最後に新年度の現況についても少し触れておきたいと思います。既に令和6年度がスタートして数か月が経ちました。年度当初のバタバタした時間が過ぎ、夏休みが終われば後半戦はあっという間にやってきます。新年度委員選出ではそのほとんどが立候補していただいたと書きましたが、新委員の方たちが持つ“思惑”のようなものがあるとしたら、それはいったいどんなものでしょうか。また、継続というとても奇妙な選択をしてくださった委員の方たちの“思惑”はどうでしょう

か。

もうひとつ本校の委員選出でご紹介していませんでしたが、本校PTA委員では特定の委員を経験すると、その後の候補者リストから外れる制度があります。ボランティアであるはずの本活動と少し矛盾した表現にはなりますが、私はこれを“後ろ向きの報酬”と呼んでいます。この仕組みは他校にも多くみられるもののようです。

新しく令和の世が始まって数年が経過しているはずですが、なかなか変化することなく存続している制度です。私個人としてはこの仕組みが持つ考え方そのものに悲しみを感ずますが、これには様々なご意見があり、次世代にも持続的で無理のない活動が可能となるよう、現実的に検討すべきというお話をいただくこともあります。

現時点にお話をもどしますが、前年度から継続してくださった方も、新年度委員の方におかれても、私はどんな“思惑”を持っていたとしても良いと思っています。あまり興味が沸かないと言った方が正確かもしれません。

委員の中にはエネルギーが大きい方もいますが、そこまででもない方もいるはずで、少なからずそれぞれが持つ期待値の大きさによりきっとコミュニケーションにズレが生じることでしょう。PTA活動以前に、そもそも私たちにはそれぞれ違ったバックグラウンドがあり、培ってきた人生経験や知識と性格、細かく言えばその時の体調や心理状態まで異なっています。先に紹介した100年前の砂漠地帯にも無数の“思惑”が転がっていたようですが、それぞれに善悪や正解を考えるとというのはそもそも無理なことだと思っています。

また、活動を通して当初の“思惑”がすっかり変化してしまった方も何人か知っています。もちろん私の持つ“思惑”も、皆さんにお伝えしている部分もあれば、お伝えしていない部分もあります。

何か思うところがあって継続、あるいは新委員に立候補してくださった方へ。そして偶然にも本稿に目を落としてくださった会員の方にお伝えしたかったことがあります。多数の立候補により有難いことに人員の規模が大きくなったことは先に述べましたが、高い動機付けや別の“思惑”が入り混じる今期こそ、私は試練の年を迎えると考えています。

この“思惑”の違いから生じるコミュニケーションのズレを埋めるために私がぼんやりと考えることがあります。それはまず、本校での活動に“100点を目指さない”とご提案することであり、この“ズレを前提”にして期待値を下げると言うことに他なりません。

もちろん無理に受け入れていただく必要などありませんが、私は度々“ほどほどにきっちり”という言葉を用いてお伝えすることがあります。本活動が元来持っている不完全さを受け入れ、大変な現代を生きる私たち大人がなるべく怖い顔をせずに一緒に前進していきたいというのが私の心からの願いです。あなたの心に届けば幸いです。

完全な余談にはなりますが、先にご紹介したお食事会が苦手な方がいても何ら問題無いと思っています。実は私がそうです。大勢の人が大声で会話する場面に出くわしたりしますが、私のような性格の人間はたちまち空気のような存在になることがあります。例えばスタッフの方が料理の置き場所を探して困っている中で、私を挟んだ隣どうしでは全く異なる内容の会話に熱中し、それでもなぜかわかり合っているかのように相槌を打つ人々を見ると、私の心はいつもどこか遠くの宇宙空

間へ飛んで行ってしまいます。

もちろんお食事会も大切な“思惑”の一つであって良いはずで、顔見知りの方を少しでも増やしていただき、是非とも大人が愉しく過ごしていただければと思います。

日本海の太陽の下をよろよろ歩き続けた私は、遂に海岸に出ることが出来ました。そこには他に観光客の姿はなく、大きな砂利と突然現れた波にそれほどの感動ありませんでした。それでもしばらくの間、私は日本海の雲のあまりの美しさに見入っていました。

波の間近に膝をついて束の間の休息をとった私は、予想していた酷い立ちくらみをなんとかやり過ごしました。そして意を決した私は、すっかりぬるくなった水を一杯だけ口に含むと、踵を返し再び黙って砂地へ戻り歩き始めました。

足が砂にとられて上手く前に進めません。

汗を吹き出して歩き続ける私の全身はまるで“ニス”でも塗りとくったかのような光沢を帯びていて、ひとたび砂地に倒れれば“砂の天かす”をまぶした滑稽な人間が出来上がるのを想像しました。

この強烈な太陽の力で本当に“天ぷら人間”になりそうに思えたその時、この“ちぐはぐな男”を描いた古い映画のワンシーンを思い出しました。現地の記者から、なぜそれほどまで砂漠に魅了されるのか問われた彼は、

「清潔だからです。」と答えました。

彼のその言葉が、砂地を歩く私の胸になぜだかずっと残り続けていました。

次回の実行委員会は、 10月 5日（土） 10：00より開催予定です。
